

新田 功
佐



五
石

集

三

~ 13
3558
3

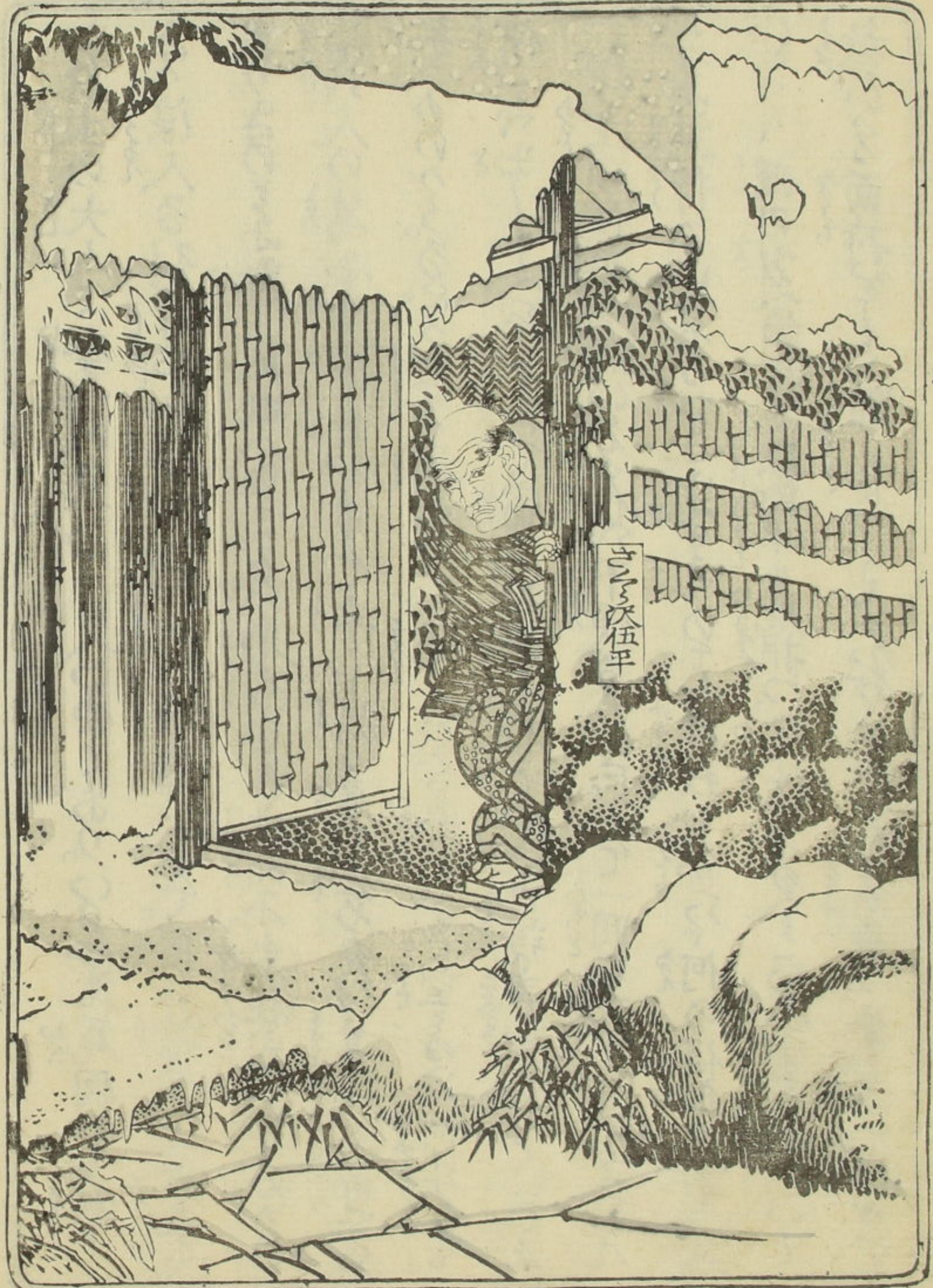
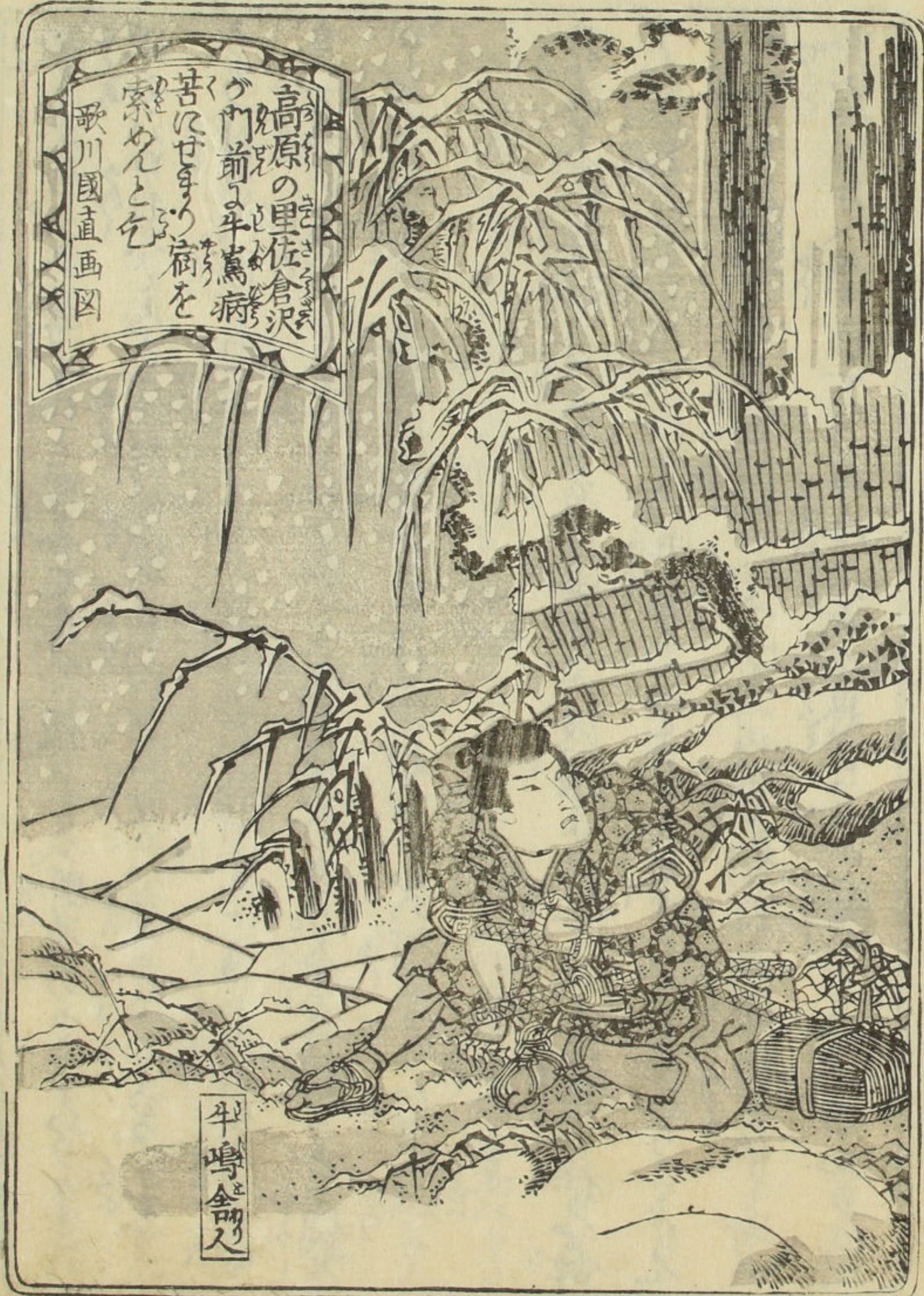


街道の赴は似たり。かて具殿と高るひり十年ほど以来より。あつに
 人の眼覚るげり。成出たる分限あり。名は佐倉沢伍平と称するや
 初老と五ッ六ッ超て五十路ふるや。二人の女児を持ちたる姉弟を
 玉座に此年既に十八分。鄙み稀る貞容貌物いひりり。賤くわが
 媒どりく納むる縁と組んといひのあれど。黄金の入べきを思て
 伍平は己を羨むるも。まご違つて免斯するまふ吾身よの益とある
 齋へまき婿もあづく。此方よりして黄金とあり。人に嫁入さる要ま
 と。賤き心尚しや。五慾の海に身を浸し。世の礼節いをも更
 る。黄金あるを羨し。人の穢をも顧みず。各牆邪慳は世を送
 つ。雲の富といふ。婢女小奴の朝中をた雪とるまふ霜のる

へ逐おとす薪と熊を隣りの門に捨てある。古草鞋るご捨せり或は
 人の起ぬまふ四辺近所の林にいらして。密に枝を下りて来る薪の
 料は充たせど。河漕の浦の細るる。面重る人々も。そまは推て
 知るのうら。輪をくふも。大なる困窮。高利と貪む格
 牆るる。思ふく。佐倉沢が黄金を借て急要と辨するの。救ま
 るは。口と唯て居るふり。伍平は。我意と震入天子將軍にも
 徑昇る。必ふ十分の驕と生。路めて人にも。會と。腰も。足は。宿
 も。目と。思ひ。會救の。か。人々。これを。憎。這。奈
 何。して。近來の。本。分。限。ある。人。と。其。の。ど。く。ふ。令。救。あ。は
 せ。る。災。ひ。あ。り。て。憂。目。か。び。く。自。た。う。と。咳。く。の。さ。あ。り。と

いど人多くして天は勝天定まると人に勝と申色足が言語一
凡夫盛の崇るす神も在ぬり佐倉沢の家はまの鏡目一と賑
い日々不織あり。かてて娘と与との入年まご七の乙女小あな
美面かまといと覆うてて梢の答五月の月差月因花の粧ひと
顔てぞもひかゝる。こゝ後配の連る見めて姉玉垂と腹と換
うり。さるるれど同胞のいと睦まうて明暮入玉垂ハ姉とよ琴
と教えもあらふまると深切の教えよなれ後配る母はいく
勢ひく。継も見えも疎くせむと衣裳調度いさるまをたねる
こ小任せしとあふのうら良人伍平が心しく悟めて思愛るを見
のとるれど衣裳の装と身に纏を髪梳化粧も費るりてその

調度とて死行わが母いりて不便も入年十七八の女の盛
あつもの。髪化粧の平生のて春の花見小夏の涼術とうち連て出
とたの食了たのまに田山細麻取の絹の襦袢と先らず傘簪
めらこころ世間あるふか黄金と貯て何不足るれ月と生且ても
髪化粧化粧物の費と美りもいね命の心の底も海より深た思
愛も在るると折るる低語と母がよして黄金調ふまも
るるる。寐物ぐりの折糸ふ此を吹か吹か伍平ハはくちらうら
いどと入年にあつる月のた巨萬の黄金と貯て何れも何れも
もも口を子孫とあふる。然野の心の着を彼の是のしと卿言ましく
いひに付麼口心より你達と心と解せむと地獄の制度も黄金ふりて



論むべき。その辱くゆと回着て参て裡口ある。厨屋の方へ入りける
婢女ハ甲斐と云く。温湯と汲て足洗かせ。此方へ在て一間ある。小舎の
より伴ひぬ。此と云く。主ハ出来の。某ハ其の高原山にて。佐倉江の伍平と喚
且太物と高ひく。其目とかなひく。送るものあり。今宵圖らむ宿賃
すわらむ。是も過世の縁ふこそ。什麼お身ハ何方より何方へ越る
旅人ハあるや。假名ハ何ぞ。眞ハさると。同ハ旅人ハある。笑て某ハ
花洛山にて。牛嶋舎人と名ハ喚。六波羅ハ仕え。人の猜ハ仕え。薛
陸奥ある。白川ハ中一の知音ある。そのて。送る。下するものあり。見
も馴れ。旅路ハ憂患難ハいふ。山もつた。山路ハ迷ひ。時ハ
野宿と云く。辱ひ。今宵ハま。惠ハ。始て。安堵のおの。

る。疊のうハ小坐する。鶴思何日の世ハ報げんや。何く。知れ
混雜あり。心懸る。其の構ハ。要と果。し
ふ。と。伍平ハ。客体と情と。此ハ。花洛のものと
と。初づ。花洛あり。さる。年ノ頃。上と。出ぬと
か。死所も。呻。以て。去る。骨。握る。丸
人。其の。陸の。奥。白川。往。左。先。頃。り
して。風説。奥州の。探頭。南堂。又。太郎。助。清。友。逆。あ。て。鎌倉
より。回。討。む。と。向。れ。と。要害。堅固の。地。は。籠。こ。て。勢。ハ。強。く。そ。の
り。野。伏。引。利。の。草。賊。等。寄。り。陣。夜。討。と。あ。り。懸。悩。ま。す。て
救。回。城。中。ま。ま。強。と。き。此。旅。人。が。作。と。あ。り。彼。南。堂。も。加

世に傳ふる

一

づつて。あはれ一方の大將さるるんどのあひまう何さる一癖ありげ
 る。と此とき初めてよるき老ぬ泊りにまると心の裡五分の忍
 と生ぶるる。鬼神の故て遠くる俸の心とあひまうてを。いと慙
 小會釈の。風をいよと文翰とすまら綿いと厚き横と出と心の外
 小郷食心たり。牛嶋舎人の始り小町のえまが歡待たるるあふりち
 ころこびと詞とる。惠と厚く謝し終り。頻て臥房へいりたり。
 かくて其夜も更け目づ家内も残らむと歌まひる。よる真夜中と覺
 しま比嗟苦や堪ぐるると叫ぶ声のゆゆる。伍平の耳の故て暫
 く寝がこらと質ふ宿りと旅人が臥房とおぼく。叔の暴の病ひる。
 序悪る要るまこととく。人駭るる費るること。と頻て悩める声の

て。小把をり小窓のうら。揃おくべたふあらびとよ次枕える燃
 どり出。蕪火の小夜と火と手燭の燈いと。子舎の紙戸と推
 あくまふ案ふ差いむと旅人が腰と抱つ疊のうら小額すりつひあ
 苦しくとひひて遠まらる。伍平の傍み跪ひて。あや旅人心地悪
 腰や病むと向ふ。苦き息とほとと吻まくと貞と皺めり。其
 ころた持病ありて時々幾と。今宵圖らむと再幾して俸さる平生
 痛強。勿論持病のころたつ翌はとと息ぶかれと今の苦痛の鬼角
 心地死をくゆとと絶入けりの声音と出して右へ轉か左へ倒して。その
 さまるりく苦むる。伍平はさるるうらも駭き。いと重らる詮方
 函師と招きて容体と。とて貰ひねといふ声は。鬼も角もさるる

先... 専...

てい。嗟堪ぐるると狂ひなり。伍平ハ舌うち鳴り。是ハいりる神の祟り。
 適宿せし旅人の暴の病ひの宿發し。西師よとて提灯へ燈を嘴
 さ三寸減のゝろの何の世ふ把や戻えとぞと吾一生の捐るり
 りと咳きくるるまぬ。勢睡るる小奴を起し。如此るると動靜と
 つげ。西師とよびて来ると命とて頓てせ。かぬ小奴ハ寐惚えし
 眼とまら。ちかひニッ四腕と左支用さく肩と揺り帯引あて西師許
 まぶくおきて口うち敲き。頓て伴ひ来り。六旅人の邊へ燭を照し。
 いざとて西師と伴るひ。旅人ハ脈とらとささる。西師ハ菽原桂菴
 として天窓げり。口々ごとある。伍平ハ詞敵貪欲無智の自徒る
 まびりて病ひと密とま。るねど小首と傾ひ。肩と頻り頻り敲

てい。舌ニッ三うち鳴りて。六脾肝ハ疾と稟胎肉ハある其時ハ其母
 好んで辛きものと食さず。毒混りて終ハ盲目とる。六運りて
 眼ハ障らぬ。病とるり。二朝一夕に。愈へた。六
 目と何さる高價の薬を用ひて早く退け去る。六寒とる。左
 ろハ頭痛と發して堪ごかんと鼻の毛ハひとらじ。口から出
 次第ハいさ。伍平ハ両手とま。實ハ桂菴老ハおなさる。とく
 此如く重病と發し。六旅人のろ。ま。差當りて吾迷惑と。
 ひの西師の耳ハ口桂菴老。今宣ひ。実ハ足下ハ脉察り。たて
 威し。とていひ。ると。同。は。菽原桂菴。羽と良。は。に。勞し。
 傍とま。て。依。務。か。り。某。つ。ら。く。こ。ま。と。め。は。病。ひ。さ。る。も。重。く。も。え

世傳卷之三

へぞ。然ると這般は堪ぐうとて在ひまうへ心得ねど病は弱人とな
 る。渠野への有無は知らねど言と巧み威しつゝ路用の限りを
 時出さう。菜小扱へるその久し。名愈よりとて遂出てん勿論路
 用と扱へる。二兩個と分えの。いと落りる小室なる伍平ハ
 穿く満面小笑とく。ちよちよ長びく牛嶋舎人が横ひた
 まうて言とたて。此地は少も扶う。今も医師が言とふ。這般は
 の病はるまじ。如此の菜と服してよく療養とる。こまにいと
 暖とちかり。さまで菜と用ひにハ價尊た品よとて容易未り
 かくる。貴客も旅中の度あり。多く路用あらざるべからず。何
 る。このと味ひぬると。因して食ハ苦り。げは頭擡く。嗟堪ぐじ。

と苦まらうと。回答さる。醫師が云ふ。夫も偽あらじ。
 假令高價の菜もせよ用ひて病ひの急り果る。さす小生た
 きやある千金と。妻もま。ま。時とて得てあり。父母の遺跡
 と傷る。孝も悖る。忠も差ると。財宝と惜む。さ。さ。旅
 路の身は。外に。外に。一物ある。ゆ。ゆ。武。武。と。詮。方。某
 国と。さ。遠。遠。の。旅。の。准。備。と。て。腰。に。括。り。て。来。ある。黄。金。取
 り。あ。あ。あり。是。中。で。絆。の。足。さ。く。ハ。医。師。ハ。語。ら。ひ。の。事。と。い。ひ。も。ん。こ
 さ。と。懐。より。取。り。さ。る。布。の。袋。いと。重。女。小。枕。方。へ。お。き。と。さ。侍。お
 取。り。伍。平。ハ。こ。ま。と。探。り。さ。る。小。室。裏。と。知。ら。ね。二。百。枚。二。百。ひ。と
 お。り。も。重。あ。り。心。の。裡。ハ。是。ハ。什。麼。か。大。金。と。辨。持。さ。る。人。と。い。ふ。さ。う。で

速くはしり。下や苦痛も道まがら。斯のどたの大金と。まの残と
 り突出とて。よはの國と特ひる元ハさき方さるの兒ゆてあ
 らんさるゆても些の慾氣もあた人あり。から人と深切らしく物さ
 るふ大分の。湯やほんと漫ふ。飲ひ彼桂菴は。腹眼すれ。頼ふ洗
 つま桂菴が。おほる指と三本いづて。尔其此方も疾点。此も被
 財布の指さして。笑とて會ふ病む人の。傍よりそひる。旅人今
 醫師の。指は。茶品高價の物と集り。志して調ひ合すれ。總て
 其料三十金ゆも。及ぶべと。事なる。餘の。價尊る。わが。いほは。金れ
 ゆても。苦む。かむ。存細る。まると。同て。舍人伏。る。三十金々
 叔おき。く。五七千の價る。の。も。病と。不。息。と。ふ。そ。を。野。も。否。む

べき。頼々苦痛と去して。いふ。伍平ハ。名。あ。然。る。が。お。ん。財。布
 一の。黄金と。出。て。世。の。又。速。は。調。ふ。べ。と。い。わ。れ。も。尚。も。伏。し。苦。痛
 ぬ。堪。わ。が。足。下。自。ら。出。て。た。ど。や。に。し。り。否。金。残。と。左。は。る。と。お。ん。財。布
 して。出。せ。れ。と。辞。り。と。そ。ま。り。他。人。の。責。を。か。く。懇。切。る。足。下。が。は。て
 ぬ。の。人。も。何。疑。が。ん。と。回。答。ふ。り。て。律。急。る。り。こ。を。居。る。と。中。法。
 頼。く。財。布。と。あ。ひ。ら。く。ふ。凡。そ。三。百。枚。け。り。紙。小。包。と。あ。り。る。う。ち。で。
 三十枚。俵。へ。お。こ。ま。い。と。舍。人。ふ。亦。し。その。ま。り。西。師。桂。菴。は。世。
 小。ま。い。と。救。て。は。り。懐。ゆ。て。遠。か。く。暇。と。つ。び。て。五。出。る。由。は。つ。ま。く
 主。伍。平。が。厨。の。方。を。送。り。出。り。頼。と。集。り。低。語。て。黄金。と。出。し。二。つ。ふ
 け。ら。ち。わ。く。そ。笑。し。と。互。別。道。ぬ。

注 伍平 伍平

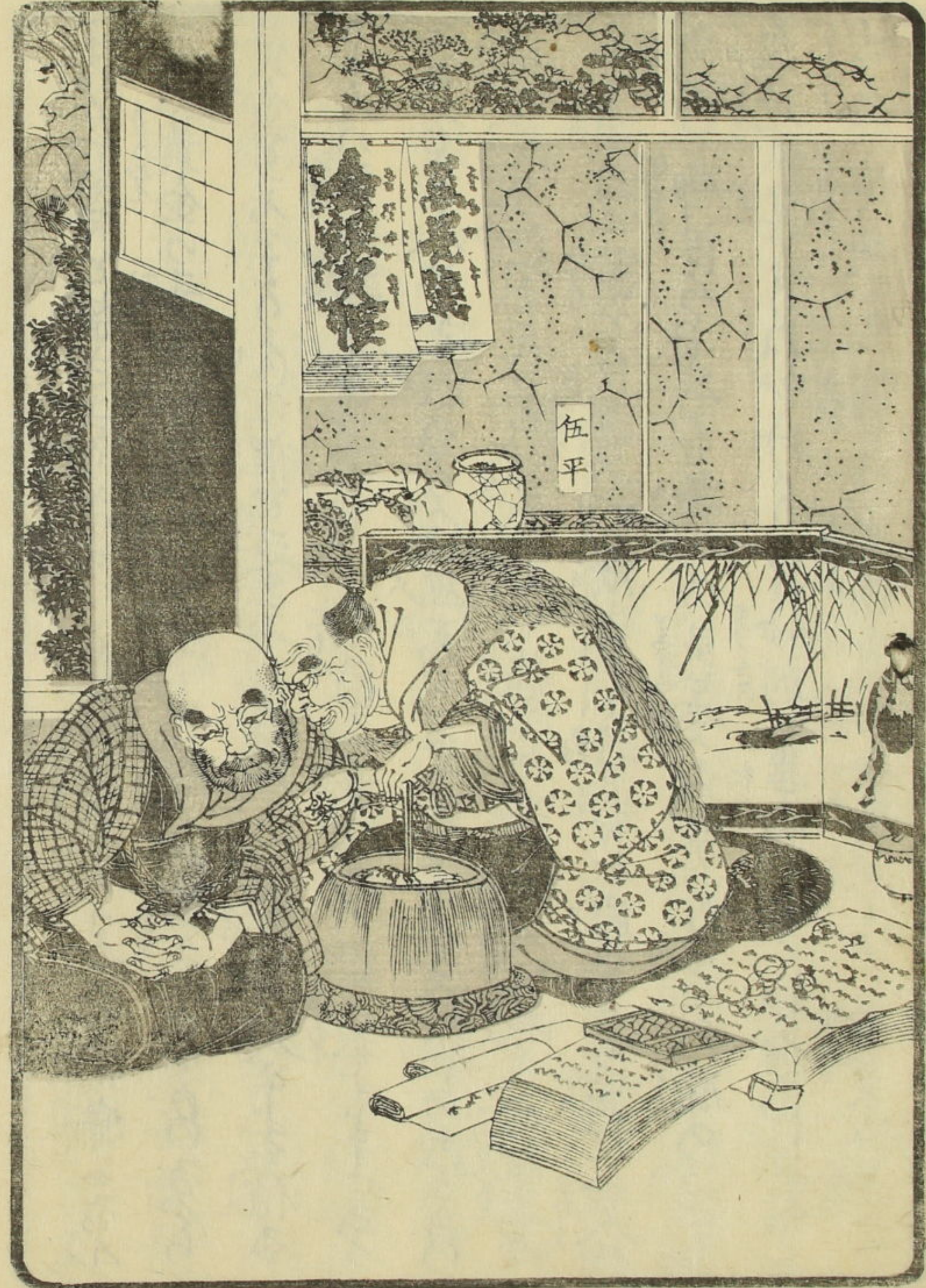
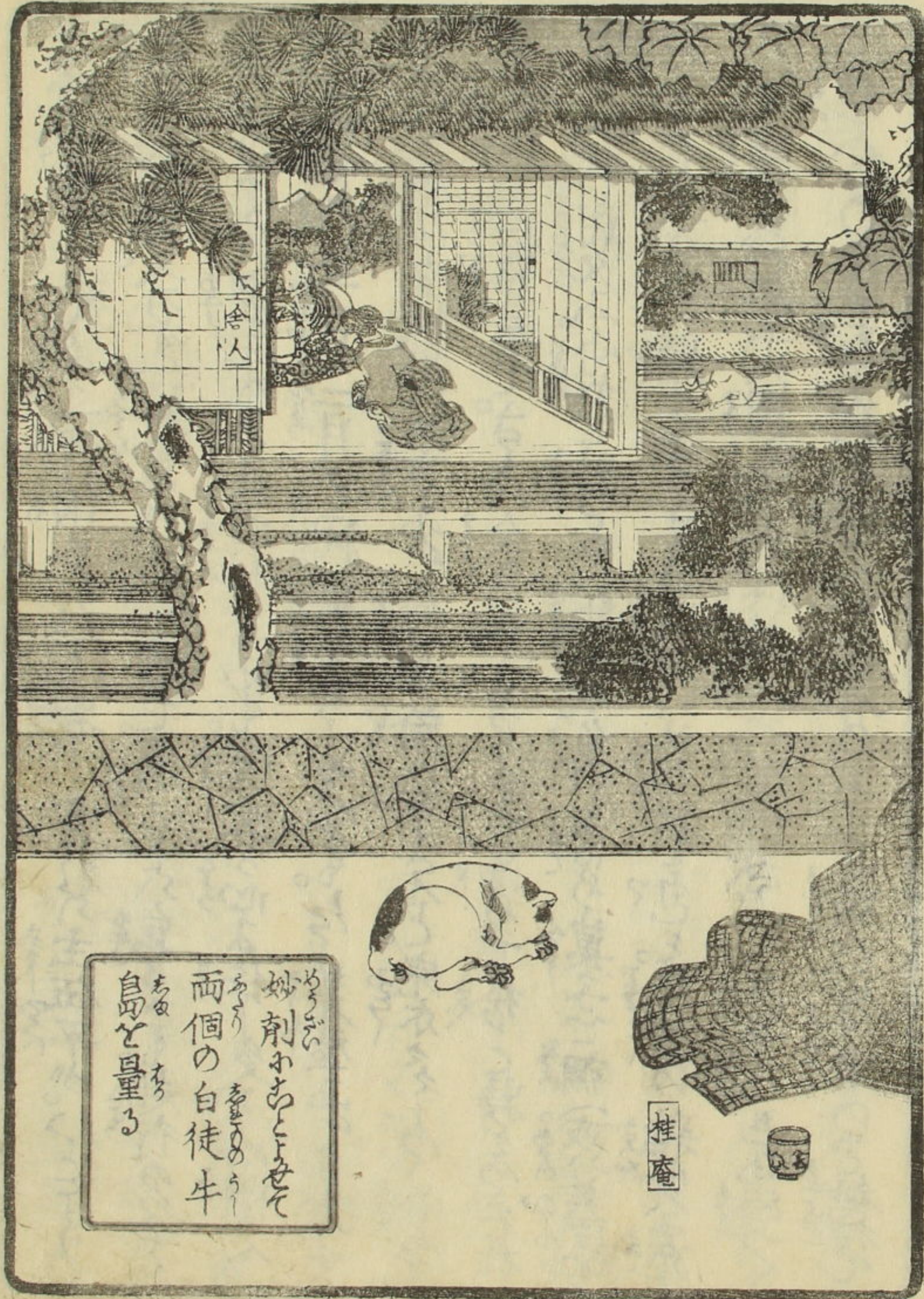
二

第六回 孫思三金通三戀情

程る。西師挂菴の家は飯了て加羅沈香麝香龍腦肉桂丁子
 白檀梅檀白ひよ。いづれも無類の良劑と。あはげりる調りあせ
 蜜煉丹と。喘々てり来る頃。東雲白く。かて舎
 人々傍は坐し。漸くゆて。或豪家は秘あま。希代の良薬三
 千金のく償ひ。是さ。用ひ。頻々。當時伍
 平も側は居り。小奴と。湯と沸さ。或菓子果ると。枕方改
 一と。並。當国鹿嶋の神符。香取の鏡の餅水と。飲
 其駿あ。こ。載。心。懸。以前は倍。り。

ま。り。て。脊。と。痛。り。其。容。体。も。傍。痛。み。る。ん。
 そ。と。黄。金。の。ま。う。ら。さ。れ。交。と。薄。し。と。唐。人。の。詞。さ。あ。る。の。り。ら。
 黄。金。と。こ。る。の。裡。と。返。ま。ど。の。追。従。輕。薄。人。を。信。る。
 ぐ。ん。八。車。の。轄。る。ま。ど。心。虎。狼。一。等。か。桂。菴。も。ま。こ。あ。る。
 る。の。そ。と。人。と。と。恒。る。ぐ。ん。八。車。と。る。ま。ど。の。期。の。お。と。の。
 白。徒。等。が。往。ま。と。量。た。へ。佛。も。伍。平。八。舍。人。と。抱。き。被。桂。菴。が。
 の。て。来。ぬ。ま。と。白。湯。み。て。飲。ま。る。漸。あ。り。て。眼。と。う。ち。困。れ。舍。人。の。
 西。個。と。仰。視。つ。ま。も。稀。代。の。良。薬。も。さ。も。別。な。腹。の。こ。と。
 忽。地。急。あ。ら。ね。か。げ。り。る。妙。劑。ハ。華。陀。も。さ。も。さ。れ。で。
 昨。夜。の。終。夜。も。ち。腦。も。ち。身。体。勞。也。今。朝。起。ん。て。覺。束。返。ま。す。

注



此の如きことにて。今日泊りぬれと。特よるれが。主伍平が。いとより
 易きおん度る色。妙業の。後と。りて。痛こそ。おの。起行ゆえと
 必ひも。あ。び。翌。中。の。あ。明。後。日。も。貴。客。が。心。に。任。り。又。い。の。此。人
 十日。廿。日。乃。至。二。月。二。月。の。間。返。留。り。ゆ。え。も。た。某。屋。に。て。こ。え。る
 こと。を。厭。ひ。ぬ。れ。ぬ。此。方。に。て。何。ぞ。輪。ひ。や。ま。え。と。完。尔。々。り。の。昔。も
 小。旅。人。の。心。落。落。居。て。さ。か。全。き。身。と。る。ま。を。泊。り。て。格。と。持。ち。ぬ。れ
 して。六。朝。又。小。奴。と。特。と。て。舞。る。魚。と。雲。の。菓子。と。調。或。は。美。酒。を
 把。り。て。ま。が。方。へ。贈。り。や。り。ま。ご。或。時。ハ。黄。金。と。包。も。旅。泊。の。雜。費。を。充
 り。て。贈。り。に。伍。平。ハ。圖。ら。ず。も。此。旅。人。と。返。留。り。て。日。毎。こ。も。お。得。つ。く
 と。熟。べ。の。も。も。毛。と。り。て。舍。人。と。主。君。の。ど。こ。お。扱。ひ。賓。客。の。ご。扱。待。て

始のむら。表は臥さ。妻子等。あ。い。の。な。せ。ぞ。く。旅。人。より。く。く
 日々の。怨。切。且。す。内。室。女。見。店。へ。さ。果。る。ん。と。と。贈。り。の。の。なら。
 今。は。る。の。心。解。く。妻。や。見。共。と。引。あ。つ。せ。具。旅。泊。の。徒。然。る。る。を。く
 姉。女。の。雅。る。れ。と。姉。玉。垂。ハ。糸。竹。の。心。と。て。の。つ。つ。中。よ。琴。ハ。好
 り。の。ゆ。あ。る。人。並。り。も。く。する。小。撫。鳴。き。て。辭。情。を。を。ら。ゆ。と
 折。ふ。る。ま。で。女。見。玉。垂。と。伴。ひ。来。り。琴。彈。一。唄。謠。つ。せ。く。漫。々。徒。然
 と。慰。め。る。り。か。目。の。舍。人。ハ。日。救。徑。と。心。地。悪。き。も。と。さ。れ。と。尚。ほ。の
 る。滞。留。して。霜。月。の。頃。と。る。と。常。言。ふ。し。の。と。あり。風。来。ら。さ
 ば。樹。も。動。く。舟。揺。ぎ。水。渾。ら。と。二。回。將。と。二。回。帶。せ。ぬ。ゆ。え
 こそ。あ。の。目。玉。垂。ハ。物。々。しく。い。ま。ら。ぬ。身。の。父。ハ。生。来。格。る。る。生。ま。に。あ

注

右

髪結さへ不費のりとして止むのり。食へき考ふも尚劣りて
 色もた衣と羨る漫は美食と名の折る牛鳴舎人か来りしり
 日毎佳有珍味と備へ折る言ては花細綿紗るとは餘りよ
 寔にこそ寐衣ふるのりやとて贈りふ言は信ある優き
 心ふいらとる。泣む處女が面をその。完ふあるも平生より増て
 溢る愛敬こそ憎らば必ひ眼とめて知る情ふは投は身は
 色糸の月下の翁や結ひえいさ又ある箱舟の最上の川はあら
 わざも水漏きと結ひあつらるる中も人目の関超てあふ夜は嬉
 しまの送不明と心の底露の情も未終る海とるる物もひ
 嗚呼この縁福の端とるれば神るる才に知るるもあははは

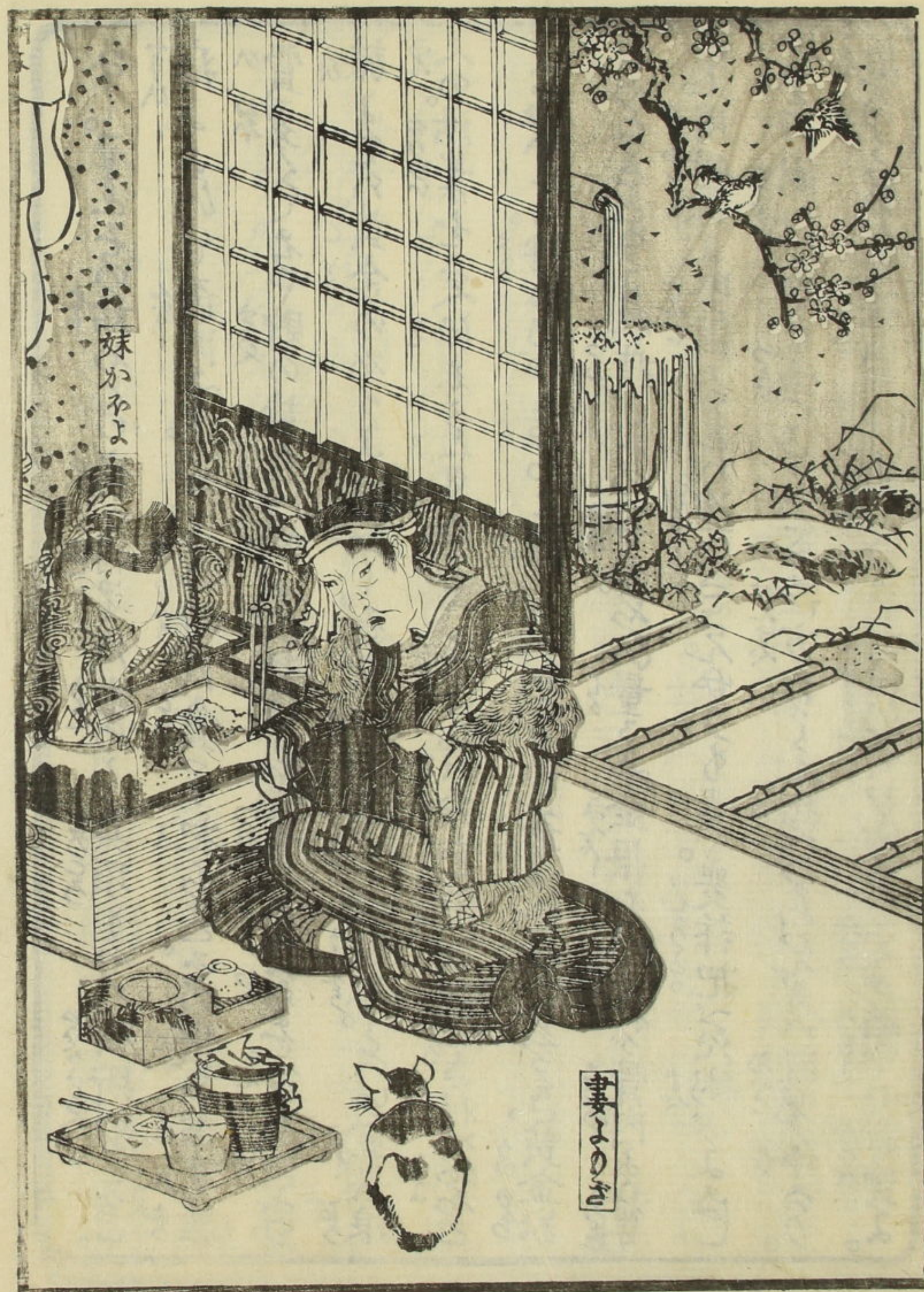
祝話とさへ醜なる。伍平はかる口ひあつらるる勢あるべくもあらざりて
 王垂ハ明らざる舎人が傍近くとあつら茶と勧め食度と畏或は衣裳
 の綻びを心とほくる景勢ハ渾家ハ等一挙動るねどさる所ふ心
 つも彼旅人より衣裳其餘おとする礼と報ひんと。女児心ふかく
 のりまら。されど送る年弱る。所謂猫は奥の守りてさするもど
 くとや物ら。や送ふ好まざる。妹脊の落らひるさるる世。彼
 人おふの定るるねど。いささる人ともあると此身は於て損ある
 らやと。欲ふひらね心う。さして言も終らば伍平が渾家ハ
 人性ま人の絆らりて。貞らるる心操さへいと遅まら老女ハ
 あるね。是て祝ふとてあふも浅増をて仕やる。世間への取家

傍る。舎人の服指するをりて、握り卑く左にふる。小指を枕みきり
あつら。波去るときは、二の節より。指は断離て、遠よみ公より。鮮濃
滴る。舎人の周章、疵口と、唇と、おまへ玉垂が、血をて、完ちとうち
笑る。心底をら、感どろり。痛もささそを強うめ。己が所持せし血止
あり。いざく、是とて傍る。包のうちより、把ひて。瘡は、塗丹細布にて
上と、醫とせしつひの。かすを、明とせし、心と疑ふと、あはれねど、
かす誓とて、あの間、一大夜を、明が、今、何と推つ、まん付、
あつら。胸とら、不圖、お身、馴遊て、今、迷ふ、捐が、心の、野の、狂
ま、少く、尚、黄縁て、百年の、苦、樂と、俱、ま、え、と、在、お、身、を、お、て、此
家と、走、り、往、き、所、へ、さ、わ、り、て、ま、じ、と、絆、を、圖、り、外、小、野、注、方

ま。口は、その、始め、の、家、へ、病、を、成、お、め、其、頃、ま、て、聊、貯、り、し、
病、よ、し、の、て、西、師、お、の、し、う、某、料、食、食、を、把、ら、し、その、後、も、彼、是、雜
費、ま、く、て、ち、野、の、黄金、へ、竭、たり。お、身、を、連、て、あ、の、家、を、ま、り、お、
旅、よ、の、黄金、の、あ、う、よ、恃、り、し、を、貯、め、る、工夫、が、肝、要、と、い、之、吾、ハ、浪
人の、活、業、を、さ、え、治、め、る、身、を、ま、へ、争、う、黄金、を、設、け、は、ん、され、ば、お、
よ、お、よ、とも、伴、さ、ひ、お、く、り、と、難、く、し、お、身、が、命、ハ、世、よ、あ、つ、と、黄金、家
よ、わ、ら、ま、ど、も、日、れ、猜、と、その、容、を、お、ひ、量、る、お、金、根、を、お、己、れ、が、骨、肉、の、尊
ぞ、用心、殊、よ、堅、固、あ、ま、び、盗、し、ご、ん、お、う、も、ろ、く、変、詐、把、て、死、術、ご、よ、は、し
か、ま、お、術、計、ご、よ、盡、て、い、ん、ご、注、方、ご、ん、然、へ、お、お、身、の、親、見、の、中、あり。
道、ご、り、秘、ご、も、命、ご、貯、聊、ご、り、ご、も、盗、し、て、お、身、と、二、又、が、路、中、の、雜、費、よ、



主口傳



村石作

元へ元工夫のあつてもや。鬼の角の由此の元先計りてあはして后よ。
 恐び出る術計をあきんといと密申す語けるを玉垂一竹皮果てや有て
 太息を吐き命さるとく妻の命に朝夕のいのちをささぐと音あると表
 みして人ゆへに裁らましても黄金よりあつても厭わぬ氣質の人中て
 美理をも厥事代も厥取をもりて羊より財へは黄金の救も何程
 とするに成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然
 りともあつても成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然
 りともあつても成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然
 りともあつても成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然
 りともあつても成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然
 りともあつても成妻の命の弁神ごころの流るる儕の黄金をこと人へのり。然

ヤ家へ来りしもの心の底と知りて。そと庫の戸の内へ足
 踏こみ入るるをれどり得妻の家の見とて己多聞に折るる。
 健と預けく黄金の管を明さると辱るのさすは妻の内へく
 ぬりしもの。腰の帯の腰の益夜とさすは括りしもの。おのりし
 聖のものは吾倚の命とて庫の内へくさすは。さすは。さすは。さすは。
 包ハ懐へるり杖へるり。隠して持出たるの渡さる。さすは。さすは。さすは。
 伝り。さすは。さすは。黄金と盗まるとさすは。さすは。さすは。さすは。
 あらわば。さすは。さすは。妻の任。ねと。さすは。さすは。さすは。さすは。
 おん身よ。さすは。黄金の管を明さると。さすは。さすは。さすは。さすは。
 とひんといと易らるる。さすは。さすは。さすは。さすは。さすは。さすは。

世説新語卷之三

十一

その癖言ぞ雨戸を少推あひて外とらるる不寒といふが寒
 夜と暖ふ綿かゝるるくちまじし横着て寝るも平生の費と
 省き此代不得着とて計多ゆを女児共のいふまふく花見
 提山と益もるた夜に費のまゝに寒夜も薄き横の袖間の
 風の堪がらんからん夜半も橋の上軒端の下は荒とて復む
 老もあるぞりし夫とあひて平生の正心着とていふを不為推
 心小も現ゆとあひて居るる玉垂ハ胸のうら一物あれば長
 のとハ将うるさうと傍とむたあしるも鼻のさだ説傳の終る
 とまら豫て父耶ハ其かへ寐のつ下るる冷の通ふさ寐床は
 て歌の腰と捨りくまらるるいど頓々と急がしむる不俚ハ

完尔とらち笑ひこら何ふるたに馳走の響応ぶるの氣味
 ころ。腰捨らせるぶさでハ落し竿う腰帯かきさるるハ
 小袖うるるを移る心であらふのと載るるも敷伸ゆる蒲団の
 上へ敷きたり玉垂ハ横うち着せ。そのま居る腰のちり脛纏
 せども揉るを不伍平ハいと熱むて。そのう人心地もいとく程さく
 寐るる鼻の声玉垂ハあどらるるてち々とうち招た母ハ背より
 血の道のおどろくるとて寐るる。その二更すもさす寐るるを
 て出りあり。いよ寐息せりるる伍平ハまふく敷睡さう折る
 したと玉垂が。さるる袋や腰の益豫てさうさふ外へさ
 盗むと二三帯の間へおひまて。四巻をすかて。抜ゆる舎人小渡

しどど頻々と廊下傳人の土庫へ去る。夜中の暗まがれ畢竟
こゝを把得るや。そのまゝ巻を捲て解へ

柱石傳初輯卷第三終

